



いぶき 第87号
 発行者 吉野 公博
 編集 患者サービス向上委員会
 香川県丸亀市城東町3丁目3番1号
 TEL (0877)23-3111
 FAX (0877)24-1147
 季刊誌 年4回発行
<https://www.kagawah.johas.go.jp>

新年のご挨拶

香川労災病院 病院長 吉野 公博



皆様、明けましておめでとうございます。

令和5年の年が明けましたが、コロナ肺炎が蔓延して早3年が過ぎようとしています。香川労災病院は、中讃医療圏において重点医療機関として地元の医師会の先生方や近隣の病院と連携を取りながら、対応して参りました。ただ、当院でも院内クラスターが起これてしまい、その間、地域医療に十分対応できない事態となりました。誠に申し訳ございません。これから出来る対応を粘り強く行い、また、対処方法も状況に合わせて改変しながら対応し

て参りたいと考えております。

コロナ肺炎の蔓延は、これまで以上に地域の医師会の先生方や近隣の病院との連携が重要であることを再認識することになりました。当院は、これまでと同様に急性期医療、がん診療、地域連携を病院の基本方針としており、今後とも地域の医師会の先生方と近隣病院と連携を密にして、地域医療に邁進したいと考えております。

さて、放射線治療装置を更新すべく、令和4年度初頭から建屋をたてて、そこに新しい装置を設置して放射線治療を止めずに引き続きできるように建設を進めています。少し遅れ気味ですが、令和5年度の6月から7月あたりで新装置の稼働を予定しております。新装置は、以前のものに比べてより精度や効果が高い放射線治療が可能と考えており

ます。また、建屋の2階にはがん診療センターを設けて、緩和ケアセンター、がんゲノムセンターや情報コーナー、がんサロン、診療室、相談室を整備してがんの治療を受けられている患者さんの総合的な援助を行うっていく部署としていく計画です。開設された時には、是非ご覧下さい。



がん診療棟(令和4年12月25日撮影)

また、以前から外来での採血に時間を要して、ご迷惑をおかけしました。昨年、新しいシステムを導入して採血ブースも拡張しております。ブースも広くなり、機器も新しく、明るく、ろで採血を受けられるようになったと自負しております。受付から採血へとスム

ーズに移れるようになります。時間も大幅に短くなっていると思います。今後も、院内で改善できる部分があれば、少しずつ進めていきたいと思います。会計の待ち時間に関しては、若干費用はかかりますが、後払いシステムもありますので検討してご利用ください。

放射線治療装置以外では、MRI装置(西日本で初めて導入となる新型のMRI装置)も1台更新しております。ほぼ2ヶ月を要してその間1台運用で、これもご迷惑をおかけしましたが、令和4年の年末から稼働致しております。これで、MRI運用は2台となり、通常に戻ります。MRI検査の比重が大きくなっている昨今、当院としては大きな戦

香川労災病院の理念

働く人々や地域の人々に
 安全で安心のよりよい
 医療と看護を提供します

力であり、地域医療に貢献できるものです。地域の先生方におかれましては、ご利用を宜しくお願い致します。

最後になりますが、今年も引き続き、コロナ肺炎と共存しながらの生活となります。政府は、そろそろ2類感染症から5類感染症へ変更するというニュースが出るようになりました。ただ、病院は院内クラスターを起こすわけには参りません。まだまだ、診療面でご迷惑をおかけすることになると思いますが、落ち着いてやるべき対策を地道に行い、生活して参りましょう。先が予想できないのが最も不安をかき立てる原因です。しかし、少しずついろんなことがわかり、また、予防、治療も進んでいくと考えられます。他方、もし体調面について気になることがあれば、コロナ肺炎が気になっても受診し、診療を受けて下さい。病院へ行くと感染するかもしれないと考えて、我慢しているとわかつたときには、手がつけれなくなってしまう病氣もある

りますので。

香川労災病院は、今年も地域の中核病院として役割を果たして参りたいと考えております。

がん診療棟竣工

中讃地区のがん治療の中心に

副院長 國土 泰孝

香川労災病院がん診療棟が、令和5年1月に竣工予定です。本館玄関前に建設中で、延べ床面積1,050㎡、1階部分は放射線治療科、2階部分はがん診療センターが入ります。(1ペー

ージ目の写真をご参照ください。)

1階には最新のVARIAN社製高精度放射線治療システム(True Beam)が設置されます。True Beam稼働は夏ごろの予定ですが、より短時間かつ高精度に定位放射線治療や強度変調放射線治療などを行うことができるX線照射装置です。

2階のがん診療センターにはがんゲノム診療センター(がんゲノム外来)、緩和ケアセンター、がん相談室、がん情報コーナー、がんサロンがあります。高度なが

本年もよりしくお願い申し上げます。



四季の植物

クロッカス

アヤメ科・クロッカス属

西4病棟看護師・高橋希巳江

原産はヨーロッパ～西アジア、球根性の高山植物です。早春に細長い葉に6枚の明るい花が咲き、球根は水栽培も可能です。花言葉は「青春の喜び」「切望」等、1月3・5・21・31日、2月24日、4月7日の誕生花です。

んゲノム医療、緩和ケア、がん情報の提供・がん相談などを行います。香川労災病院はがん診療棟を中心に、地域がん診療連携拠点病院(高度型)・がんゲノム医療連携病院として高度ながん治療の提供とがん患者さまやその家族の療養生活の質のより一層の向上を目指しています。

年とともに心身の活力が低下した状態を「フレイル」といいます。フレイルの特徴は、栄養・運動・社会参加などに取り組むことで健康を取り戻すことができます。当院では、毎月第4水曜日12時からフレイル予防教室を開催しています。人生100年時代をいつまでも自分らしく歩んでいくために、一緒にフレイル予防に取り組んでみませんか。参加お待ちしております。(申込先・地域連携室 0877・23・3111 (代表))

「フレイル予防教室」を開催しています

認知症看護特定認定看護師 吉川 明美



開催日	内容	講師
1月25日	「失禁予防トレーニング」	皮膚排泄ケア特定認定看護師 松永 希
2月22日	「いきいき脳トレーニングで認知症予防」	認知症看護特定認定看護師 吉川 明美
3月22日	「口から健康に！オーラルフレイル予防」	摂食・嚥下障害看護認定看護師 直原 裕子

連載 5

中西讃の歴史点描 江戸時代初めの満濃池修復

香川大学名誉教授 田中健二

本年度は、香川県西部地域の歴史について、四回に渡りお話しします。一回目は、満濃池の修復についてです。

ご存知のとおり、まんのう町にあります満濃池は、農業用のため池としては、わが国最大規模の貯水量を誇ります。写真は、国営讃岐まんのう公園のパノラマ展望台から撮影したものです。正面に満濃池の堤体が見えています。右遠方の山は象頭山と大麻山です。満濃池が初めて築かれたのは、奈良時代の大宝年間

(七〇一〜七〇四)のことと伝えられています。その後、弘仁九年(八一九)には決壊し、三年を要して修復が行われました。このときの修復においては、讃岐出身の僧空海が現地の人々に慕われていたという理由で、修築の長官に任命され、無事、完成しました。その後も、満濃池は幾度か決壊し、その都度修復されましたが、源平争乱たけなわの元暦元年(一一八四)の大洪水による決壊後はついに修復されることなく、中世を通じて放置されました。

幕末から明治初めにかけて編さんされた地誌『讃岐国名勝図会』によれば、決壊後の満濃池の跡地は農地となり、池の内村という集落ができていたそうです。この村については、ほかに存在を示す資料がなく、「幻の村」とされていました。ところが、平成二〇年、高松市歴史資料館が購入した「讃岐国絵図」の那珂郡の山中に「池内」村が記され

ていたのです。次に掲げる【図1】は、上の「讃岐国絵図」の一部について写図を作成したものです。

小判型の記号で示された地名は、当時の村々の名前です。肩書は、村々を束ねる親村を示しています。七ヶ村(七箇村)の中に「池内」村が含まれています。金倉川の上流に位置することから、池の内村に当たっているとみられます。満濃池の

修復は、寛永八年(一六三二)のことですから、この絵図は、それ以前の状況を描いていることとなります。

当時、讃岐一国の大名であった生駒家の当主高俊は若年であったため、その母の父、伊勢津藩主の藤堂高虎が家臣を派遣して藩政をとらせていました。満濃池をはじめ、讃岐国内に多くのため池を新造・修復した西島八兵衛もその一人です。

田中健二氏プロフィール



田中健二さんは、香川大学名誉教授で、専門は日本中近世史です。多年にわたって香川県文化財保護審議会の委員を務められ、教育文化功労者として令和元年に県知事表彰をうけていらっしゃいます。



満濃池



図1

八兵衛は、寛永三年に池内村で二五畝ほどの農地を持つていた豪農矢原正直のもとを訪れ、年々の干ばつの被害を解消するため、満濃池を修復する必要性を説き、農地の所有権を放棄することの了承を得ました。

寛永五年一〇月から足掛け四年の歳月をかけて満濃池は修築され、同八年二月に竣工しました。決壊した満濃池の状況を記した絵図が次に掲げる【図2】です。本図は公益財団法人鎌田共済会所蔵の模写図の一部について写図を作成したものです。中央に池の宮がある小山が描かれ、その左右に水流が見えます。小山の左側が崩壊した堤体の跡で、かつての池地からの川(金倉川本流)が通り、大小の石が散乱しています。右側の小川は「うてめ」(余水吐)の跡です。右側の池地側から岬状の地形にかけて民家と道、農地を区切るあぜ道が描かれて



図2

います。ここが池内村の中心でしょう。

幕末に至り、嘉永七年(一八五四)六月、伊賀上野地震により、満濃池は再び決壊しました。その修復工事は、地元の人々の尽力により、明治三年(一八七〇)年に完工しています。

このようにして再度修復された満濃池は、風致景観にすぐれ、名所的価値が高いことから、令和元年一〇月一六日、国の名勝に指定して保護されることになりました。堰堤としては初めての指定です。

部署紹介「ICU(集中治療室)」

ICU看護師長 柳原 里香

ICUは、疾患の種類に関わらず重篤な状態の患者様を受け入れています。多くの医療従事者たちが連携しチームとなり、少しでも早い退院や社会復帰のために命の最前線と向き合っています。

看護師は、救命を第一に対応し、異常の早期発見や後遺症が残らないためのケアを行っています。また、それだけでなく、更に質を高めるために、突然ICUに入室となった患者様やご家族に対して気持ちに寄り添うことを大切にしています。取り組みとして「IC

Uダイアリー」というICUでの様子を日記として綴り、元氣になられた時に読んでいただけるものを作成しています。ご家族との交流を持てるように、ご家族にもメッセージを書いていただいています。そして「オンライン面会」についても検討しています。現在、面会を禁止している状況が続いています。入院中はご家族の面会が療養の大きな支えとなります。少しでも安心して入院生活が送っていただけるように取り組んでいます。

編集だより

患者サービス向上委員

渡壁 美香

初春とはいえまだまだ寒さが続く中、まもなくがん診療棟が完成し稼働します。

がん診療連携拠点病院として、様々な職種と連携を図りチーム医療を展開することで、患者様によりよい医療・看護が提供できると考えます。

ちなみに看護部のキヤッチフレーズは「ポジティブにチャレンジする」としています。職員同士の対話を促進しながら協働し、皆で前進していきましょう。広報誌等へのご意見がありましたら、是非お寄せください。

さい。

専門は呼吸器内科であり、患者様の症状を少しでも和らげることができるよう、体と心の両面から支えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



新任医師紹介



第八内科部長
あつこ 平生 敦子

この度、4年5か月ぶりに香川労災病院に戻ってまいりました。趣味と言えるほどではありませんが、休日のランチめぐりが楽しみの一つであり、新しくオープンしたカフェなどを見つけては家族と開拓しています。香川県でお勧めのお店があれば、ぜひ教えてください。